

平成23年度 甲南学園 事業計画書

はじめに

学園を取り巻く環境は、政治・経済・社会・文化の各領域、国の内外とも構造的変化の渦中にあります。そのなかにあっても学園は「正シク、強ク、朗ラカニ」各界・世界で活躍する人物を育む建学の精神を貫き通し、個性輝く教育機関として、その使命の達成と社会的評価の確立を常に目指しています。

平成18年度から平成22年度までの5年間の期間で策定した中期経営計画に基づく事業は、学園90周年募金事業も含め計画通り実施されました。学園創立90周年募金事業の高等学校・中学校新体育館整備が実施されていませんが、環境が整い次第、実施可能な手筈は既に整っています。

平成23年度は大学開設60周年を迎え、来るべき学園創立100周年に向けての基盤を整備し、明確化する年度となります。中期経営計画により新設した3学部のうちマネジメント創造学部とフロンティアサイエンス学部は3年目、知能情報学部は完成年度を迎えます。

学生の就職活動の厳しさが一層増すなか、キャリアセンターにおける就職活動支援やキャリア教育の強化に止まらず、学生の人間的な成長を支えるべく、学部教育も専門教育にこだわらず実践的人間知の深化と広がりを含養することに様々な形で挑戦していかねばなりません。また、専門職大学院（法科大学院、会計大学院）にあっては、これまでの実績や専門職大学院をめぐる情勢の変化を捉え、厳しい環境に勝ち抜くために更なる発展を図るべく、様々なレベルでの再編成も含め、あるべき姿を見据えて学園としての位置づけを確固たるものにする必要があります。それらの関わりにおいて、教育研究・事務の情報システムのあり方や捉え方も相当変化しつつあり、高等学校・中学校を含む学園全体の特色ある情報環境の構築を目指します。

財務面にあっては、帰属収入の大幅な増加が期待できない状況のなか、今年度中に借入金を完済する等々の措置により支出構造の健全・適正化に取組み、教育研究への積極的投資のできる財政基盤を形成いたします。学園創立100周年に向け、大局観をもって様々な問題に適切に取組むなかで、中期的展望をもって以下の事業に取組んでまいります。

I 中期経営計画事業の展開

1. 「人物教育率先」に基づく教育の質向上への挑戦

(1) CUBE「マネジメント創造学部」、FIRST「フロンティアサイエンス学部・同研究科」の充実

マネジメント創造学部では、引き続き、プロジェクト型教育を中心に教育環境の充実を進めると共に、特に特別留学コース学生の英語支援及びマネジメントコース学生の留学支援を目的とした英語ヘルプデスクの設置、英語資格試験受験に対する支援を強化します。

フロンティアサイエンス学部・同研究科では「マイラボ」を活用した少人数の教育研究指導、著名なOB等による講義「フロントランナー講座」、講演会「サイエンスライブチケット」、島内を中心とした連携「アイランドシップ連携」等に継続して取組み、より高い質の授業を学生に提供するように努めます。

(2) 理工学部・知能情報学部の充実

理工学部では平成22年度に生物学科を14号館に、7号館に物理学科、機能分子化学科と地学研究室を集約し、自然科学基礎実験施設や学修支援施設を設置しました。これらを活用し、実験科目を中心としたカリキュラムの刷新を行う等、教育・研究体制の整備を図ります。また、知能情報学部では、じっくりと物事を論理的に考え、自ら問題を発掘し、解決するという底力を身につけた数理情報系に力強い人材を育て上げるために、高大7年間の一貫教育を重要視し、甲南高校における「情報B」と「特別実験」、及び「数学」の一部を本学部教員が担当し、数理情報系科目への関心を引き出し、受験教育にありがちな表層的な知識の詰め込みではなく、数学や情報関連科目の本質を浮き彫りにした取組を強化します。

2. 学園創立90周年記念募金事業の取組

(1) 高等学校・中学校新体育館整備事業の具体化

高等学校・中学校新体育館整備事業は、実施が可能となる安全・安心のできる環境が整うことを期しています。

(2) 平生鈆三郎記念教育振興事業

「平生鈆三郎記念教育振興事業」として創設された「人物教育率先平生拾芳奨学金制度」による「甲南90周年栄誉スカラシップ」(大学)、「甲南90周年オナースカラシップ」(高等学校・中学校)の各奨学金給付を継続して実施します。

(3) 芳名録・銘板の製作及び募金事業のデータ整備

平成22年度の学園創立90周年記念事業募金終了に伴い、募金発起人、寄付者各位への感謝と顕彰を目的に芳名録の発行、及び銘板を設置します。また、学園創立100周年に向けた、募金活動のデータを整備します。

II. 大学・大学院関係

1. 教育

(1) 大学開学60周年事業の実施

大学開学60周年を迎えるにあたり、開学時に設置された文理学部(現在の文学部、理工学部)、そして間なく開設された経済学部の各学部が連携を図り、大学全体の周年事業として位置づけ、記念シンポジウムや講演会を開催し、これまでの本学の歩みを振り返る機会を設け、建学の理念を教育のなかに実現していくことを全学的に再確認いたします。

(2) 全学共通教育の改革

学長の諮問に基づき平成21年から取組んできたワーキンググループによる「全学共通教育」に関する検討は、各学部の現状分析を経て答申がなされ、「教養と専門とのバランスを大切にした人物重視の教育」(「人物教育率先」)の実現を目指します。

(3) 特色ある教育への取組

これまでに終了した「甲南平生GP」での様々な取組で得たシステムやノウハウを継承・発展させるとともに、平成21年度文部科学省の「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」に採択された「相互評価に基づく学士課程教育質保証システムの創出—国公立4大学IRネットワーク」(期間3年間)に取組み、特色ある教育を実現させます。ま

た、補助金事業で採択された取組については、継続発展、規模縮小等、補助期間終了後の取扱いを成果や社会情勢を見据えながら検討します。

※甲南平生G P：本学の特色として明確に打ち出せる教育改革の取組を教職員から募集し、優れたプランは、文部科学省の「大学教育改革プログラム」に応募するとともに、全学的な支援体制を整えて実行することを目的としています。

※IR Institutional Research(機関研究)：大学内の様々な情報を収集して、数値化・可視化し、評価指標として管理し、その分析結果を教育・研究、学生支援、経営等に活用すること。

(4) F D活動等教育改革への取組

全学的なF D委員会の活動に加え、授業改善アンケート、F D講演会、ホームページ・F Dニュース等での情報発信を効果的に行うための分科会・部会の活動強化を図りつつ、甲南らしい活動を継続して推進します。また、平成22年度文部科学省「大学生の就業力育成支援事業」に採択された「人物教育率先に根ざした実践的能力の育成」プログラムでの社会との関わりを念頭においた専門教育の再構築を主導します。

※F D (ファカルティ・ディベロップメントの略)：教員の授業内容や教育方法等の改善・向上を目的とした組織的な取組の総称。

(5) キャリア教育の推進

平成18年度文部科学省「現代G P」に採択された「価値創造のできる21世紀型教養人の育成プログラム」による1年次から4年次までの体系だったキャリア教育カリキュラムを更に充実させ展開します。

※現代G P「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」：文部科学省が各大学からの応募を受け、学生教育の質の向上等の大学教育改革の取組を選定し、財政的なサポートや幅広い情報提供を行い、各大学等での教育改革の取組を促進することを目的としています。

(6) 学修支援の推進

推薦入学手続者等を対象とした入学前教育プログラム、リメディアル教育や情報システムを活用した各学部の特徴的な学修支援プログラム、履修指導を持続的に実施し、学生の学習意欲向上に向けた取組を強化します。

(7) 自己点検評価の推進、内部質保証システムの構築

平成24年度に実施する自己点検・評価に向け、自己点検・評価のベースとなる中長期プラン策定準備、内部質保証システムの構築を推進します。これまでに定めてきた学士課程の教育基本方針等を定着させ、建学の理念である「人物教育率先」を具現化する教育課程の編成と研究の充実を図り教育の質を保証すべくP D C Aサイクルの定着を図ります。

(8) 国際交流・留学支援の推進

学生の国際交流や留学への興味・関心を高め、短期の留学体験から長期留学への実現に向け「ホップ」「ステップ」「ジャンプ」で段階付けて留学拡充を図るべく、留学生を対象にした「逆エリアスタディーズ」プログラムの開講と本学学生との交流、留学生学修アドバイザー制度の運用開始、短期留学体験型プログラム「エリアスタディーズ」の継続実施及び同プログラムの拡大に向けた実地調査、包括協定を締結したアジア圏の各大学との交換留学交渉等各取組を展開します。また、留学生の受け入れにおいても本学の特色であるホストファミリーでの滞在を充実させるべく、多様なホストファミリーの維持開拓を図ります。

(9) スポーツ強化支援策の実行

「強化指定団体制度」、「指導者招聘支援金制度」を軸としたスポーツ教育力の強化を図ります。体育会クラブの積極的な地域貢献・広報活動等、総合的なスポーツ教育力強化支援策を継続して実施します。

(10) 専門職大学院の新たな展開

法科大学院は戦略プロジェクトとして第2期の3年目を迎えます。法科大学院を取り巻く状況は厳しさを増す一方ですが、受験応募者数の安定した確保に努めるとともに、初回合格の達成、中堅ロースクールとしての地位確立に向け、学習環境の整備・改善、教育体制の点検・改善、NC東京との協力をとおしてブランド力の全般的なアップのための諸措置を講じます。会計大学院は平成22年度に戦略プロジェクトとして第1期を終了しました。評価委員会による評価に基づき、公認会計士試験11名合格という昨年度の実績を安定的に維持・発展すべく新たな展開を図ってまいります。

2. 研究

(1) 平生太郎基金科学研究奨励助成による助成金交付

自然科学（医学を含む）及びそれを中心とした複合分野を対象に、本学が世界水準の研究拠点となる夢を実現しようとする気概のある研究に対して平生太郎基金により奨励助成します。また、人文・社会系分野においても、同基金の遺贈者の精神に喚起された学園が同様の趣旨で「甲南学園平生記念人文・社会科学研究奨励助成」として助成金を交付します。

※平生太郎基金科学研究奨励助成：学園創設者平生鈆三郎のご子息、平生太郎氏のご令室である故平生愛子氏から遺贈を受けた財産で、科学研究を奨励することを目的とした基金。平成6年より開始された学内の研究奨励助成制度。

(2) 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の展開

文部科学省の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に採択された下表の事業を引き続き推進します。

【私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の継続研究】

テーマ	期 間
「心の危機の見極めと実践的ネットワークの創造」 (人間科学研究所)	平成20年度から5年間
「分子クラウド環境を活用した遺伝子発現系で活躍する機能性分子のデザイン・開発システムの構築」 (先端生命工学研究所)	平成21年度から5年間
「関西地域発イノベーション・プラットフォームの構築」 (ビジネスイノベーション研究所)	平成22年度から3年間

(3) 研究支援体制の強化

フロンティア研究推進機構が核となり、科学研究費補助金をはじめとする競争的研究資金の申請から研究費の管理・執行までを一元的に支援し、各種セミナー等を開催し、補助金事

業の正しい理解ときめ細かいサポートを強化します。また、文部科学省による「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」に対応する体制の一環として科学研究費補助金の適切な執行管理を行うための管理システムを導入し運用を開始します。

(4) 知的財産管理体制の強化

「知的財産セミナー」の開催等により、本学における知的財産の取扱いについての周知及び、契約手続き等の実務面での支援を行うとともに、知的財産に係る関連手続きを整備します。

3. 学生支援活動

(1) 奨学金・表彰制度の充実

学生のより高い意欲を引き出すために、優秀な学生（成績、スポーツ、留学等）への表彰制度、給付制奨学金の充実、また、留学、教職等を目指す者に対する目的別の貸与制奨学金を引き続き実施します。

(2) 学生生活支援委員会等の機能強化

学生生活支援委員の下に障がいのある学生等の支援を検討する小委員会を設け、必要となる具体的な施策を実施します。また、同委員会の統轄の下、学生部、医務室、学生相談室、スポーツ・健康科学教育研究センターとの協働により、発達障害等の学生に対する全学的支援を推進するとともに、ピアサポーター等学生支援者の育成を図ります。

(3) 学生生活の活性化、健康管理支援

在学中に課外活動で顕著な活躍をした学生に、学長表彰・学長顕彰等各種表彰を行うとともに、引き続き、甲南大学父母の会から支援いただく「父母の会・学生G P」を活用し、学生と教職員が協力の下、学生が主体的に行う様々な取組を喚起します。

また、学生を中心とした共生・共働キャンパスの実現を目指し、市民救命士育成講座、スポーツ安全講習会等を開催するとともに、学校医による健康相談、医務室でのセイフティネットを強化し、学生の心身の健康管理と増進を支援します。

(4) キャリア形成・就職支援

学部・大学院の特性を考慮したプログラム、インターンシップ・ボランティアプログラム、「OB・OG懇談会」、「専門職の先輩達との交流会」、保護者に就職活動やキャリア支援への理解を深めていただくための父母就職説明会等を継続実施します。また、平成21年度文部科学省「大学教育・学生支援推進事業」（期間3年間）に採択された「ニート回避と未内定者削減のための就職相談・情報提供体制の充実」、平成22年度同省「就業力育成支援事業」に採択された「人物教育率先に根ざした実践的能力の育成」プログラムを基に、就職活動の意欲向上とニート回避を目指した支援体制の構築、学士課程教育における社会とのつながりの明確化と職業理解や勤労観を培うことを目指した取組を推進します。

また、教職志望者には、教職教育センターにおいて、甲南ならではの教員養成のためのプログラム、講座等を展開するとともに、全国模擬試験の受験支援等学生自らのレベル把握とモチベーションの向上に取り組めます。

(5) 父母対象の教育懇談会の実施

保護者の方々に学生生活の理解と関心を深めていただくことを目的に、春期に本学で1回、秋期に地方で2回実施している「教育懇談会」の実施形態を見直し、本学での年2回開催を検討する等、保護者に教育環境等を確認いただく工夫と内容の充実を図ります。

4. 社会連携・貢献活動

(1) 地域連携・貢献活動の推進

これまで文学部内に設置した「コミュニティ・デザイン・センター（CDC）」が担ってきた地域連携の窓口をフロンティア研究推進機構内に新たに設置する「社会・地域連携推進センター（仮称）」に移します。神戸市東灘区や御影クラスセとの地域連携協定に基づく取組等地域連携活動に教職員及び学生が主体となって取組む全学的な体制を構築し、シンポジウムや研究会を通して各研究所での研究成果を社会に向けて発信します。また、先端生命工学研究所では「神戸医療産業都市構想」の中心地であるポートアイランドにおいて近隣企業等との連携を推進し、先端的な研究開発拠点となることを目指します。

経済学部が学生・行政・NPO等と一体で取組む「地域活性化システム論」、文学部の「地域連携講座」科目等を発展進化させるとともに、学内博物館実習施設「ギャラリー・パンセ」での展示発表、六甲アイランド体育施設を活用したイベント、図書館・サイバーライブラリの公開利用等地域とのつながりを図ります。

(2) 高大連携の推進

「高大連携聴講生制度」に基づく、指定講義における高校生受入れの充実を図るとともに、各学部・大学院、研究所においては、出張講義、模擬講義を拡充します。また、独立行政法人科学技術振興機構（JST）等が支援する大学と中学・高校等との連携事業への企画申請、採択・実施を目指します。

(3) 教育委員会等との連携強化

「数学理科甲子園」等の実施を後援し、知名度の向上と社会貢献を図ります。また、理工学部においては、新たに整備された自然科学基礎実験施設を使用して、教員免許法に義務付けられた免許更新制度に伴う更新講習を開講し、社会の要請に応えます。

(4) 産官学連携の推進

本学の知的財産を有効活用するため、展示会、新技術説明会等で積極的に情報を発信するとともに、フロンティア研究推進機構において、「産学交流サロン」を開催し、産業界、官公庁、卒業生・地域住民等との緊密なネットワークを構築します。

(5) 大学間連携の推進

「大学コンソーシアムひょうご神戸」の学生交流委員会の事務局として、同委員会が主催する「学生交流祭典」等を通じた加盟大学間の交流を促進します。

(6) 生涯学習の支援

社会人講座、各種シンポジウム、公開講座、「ジュニアスポーツクラブ」等を通じて、生涯学習の機会を社会・地域に提供します。

5. 環境整備

(1) 安全管理の強化

新たに竣工した岡本キャンパス防災センターを拠点に、従来の避難訓練を総合的な防災訓練に格上げして実施することにより、キャンパスの防災力を高めます。また、自衛消防隊の充実を図るため、引き続き人材育成に取り組めます。

(2) 快適・安全なキャンパス構築の推進

校舎入口の自動ドア化によるバリアフリーを推進するとともに、岡本キャンパスグラウンドのスタンド、六甲アイランド体育館のシャワー室等、老朽化した施設を改修し、快適・安全なキャンパスづくりを推進します。

(3) 情報インフラ整備の推進

教育研究、社会貢献を支えるIT環境構築に向けた最適なシステム運用を検討するとともに、学内ユビキタス環境の安定稼働とセキュリティの強化、学修支援ツールとしてのポータル・システム等の利用促進を図ります。また、事務システムにおいても、各部課室のサーバーを仮想化技術で集約し、業務用パソコンもシンクライアントを用い、セキュリティリスクの低減を図ります。

6. 学生募集・入学試験に係る活動

(1) 学生募集活動の強化

本学の教育理念に共感し、かつ優秀である学生を受け入れるために、入試結果の分析と入試制度の検証を行い、安定した志願者の数と質の確保を図ります。オープンキャンパス、高校生や高等学校教員を対象とした説明会等の充実を図るとともに、年間計画に基づき、時期・対象・地域・広報媒体等訴求効果の最適化を図ります。また、入学試験においては、過誤の発生を未然に防止するための組織体制を強化します。

(2) 協定校・指定校との連携

指定校推薦依頼校を対象とする教育交流会の充実を図るとともに、協定校推薦入学制度の推進を踏まえ、新たな協定校、連携プログラムの充実、協定内容の見直し等高大接続についての検討を進めます。

※協定校推薦入学制度: 高大連携活動を通じての両校の教育理念・教育方針についての相互理解の下、大学の教育内容を深く理解し、入学意欲の高い入学者を高校の推薦により、一定数一定期間、大学が継続して受け入れる推薦入学制度。

(3) 大学院入試制度の多様化

大学院の志願者増を目指し他大学院の動向を把握し、入学試験の制度、実施時期・回数、受験会場等の見直しを図るとともに、多種多様な説明会を実施、ホームページを活用した広範囲にわたる情報提供等を行い、多様な独自の広報活動を強化します。また、フロンティアサイエンス学部・同研究科においては学部学生の高い研究意欲の受け皿とすべく大学院への飛び級制度の整備を行います。

Ⅲ. 高等学校・中学校

1. 教育

(1) 中高6年一貫教育システムの構築と検証

甲南大学、そして世界の大学を目指す中高6年一貫（2－2－2、基礎・応用・発展）の「新教育システム」を完成させるために、①人間力・対話力の充実に向けた日本語・英語の言語リテラシーの養成強化、②日頃からの読書力の涵養、③継続的な「計算力テスト」「漢字テスト」「英単語テスト」による基本的学習力の涵養、④ネイティブ教員による「サマーキャンプ」の実施やクラスを半数に分割した「オーラルコミュニケーション」科目による英語を使う力の涵養、⑤学習・生活習慣の定着を図る各種学校行事の推進を行うとともに、新たな留学協定校を検討し、国際交流活動の更なる充実を図ります。

(2) 「グローバル・スタディ・プログラム」の充実

国際人の育成を図るために、文Iコースの生徒を対象に実施してきた10週間の海外留学を組み入れた「グローバル・スタディ・プログラム」に「言語技術教育」「東アジア異文化交流史・関係史」「国際政治・経済」「グローバル総合学習」等の教科を連携させ、更なるプログラムの充実を図ります。

(3) 甲南一貫教育の実現

「正シク、強ク、朗ラカニ」の平生精神をバックボーンとする甲南一貫教育を実現するために、①社会で活躍するOB、学年を超えた学友たちとのコミュニケーションを通じた豊かな人物教育・人脈形成、②中高大連携講座やe-learningによる高大連携講義の充実、③甲南小学校との連携強化を図ります。

(4) 伝統に根ざすイノベーションを実現する体制

理事長・校長の経営方針の下に、人物教育率先、教育内容の更なる充実・発展を図るため諸機関と連携し、①教員組織活性化のための組織的取組、外国人英語担当コーディネーターを新たに採用する等、人員体制の強化、教員研修制度の充実、②広報戦略の強化を図ります。

2. 学習活動・学校生活支援活動

学力向上を目指した日常の学習意欲喚起の体制を構築し、学力の向上・定着を図るため、①7限授業の実施、②学習センターでの学習支援の充実、③メールマガジンやe-learningを活用した家庭学習との連携、④海外協定校とのクラブ間交流を推進します。

3. 環境整備

安全・快適な環境確保・整備のために、中長期の展望を拓き、定期的な施設・設備の点検・改修を行います。

4. 生徒募集・入学試験に係る活動

生徒募集を強化するため、学内での入試説明会を充実させ、学外での塾対象説明会を新たに実施します。また、ホームページの更新や学校情報サイトを活用して広報活動を一層推進します。

IV. 法人

1. フランス甲南学園トゥレーヌの教育の質向上と閉校への取組

平成24年度末の閉校に向け、有終の美を飾るべく、学園挙げて同校の教育水準の維持・向上と閉校までのプロセスを円滑に遂行できるよう管理運営を強化します。

2. 管理運営・財政

(1) 内部統制の取組推進

危機管理、コンプライアンス、業務の有効性・効率性の体系に沿った規程やマニュアル等の周知と整理を図り内部統制の定着と意識化を図ります。また、監査部の強化を図り、法務体制の強化、公益通報者保護体制の構築を図ります。

(2) 新給与制度の構築、職員組織、人事制度の点検、労働環境の改善

学園の発展と個人の成長が相関する新給与制度の構築に引き続き取組み、適正な人件費割合の実現を図ります。また、より高いレベルの教育・研究支援と学園管理運営体制を実現するため、環境変化に柔軟で対応能力の高い事務組織の構築、人事諸制度の見直しを図るとともに、安全衛生対策組織の構築に取組みます。

(3) 安定的な財務体制の実現及び財務情報の開示

発展的でより安定した学園財政を目的に「財政健全化のためのガイドライン」を遵守するとともに、日本私立学校振興・共済事業団からの借入金を年度内に繰上償還し、無借金体制を実現します。更に、リース物件の買取り、超過勤務時間の削減等により支出構造を抜本的に見直します。また、学園財政に関する説明責任を果たすべく、引き続き、財務情報の開示に取組みます。

(4) コスト削減の実施及び省エネルギーの推進

リース物件の買取りによる経費圧縮、物件調達規程の遵守、電子入札購買システムの活用等によるコストの更なる削減に取組みます。また、省エネルギーの中長期計画に基づく省エネ投資と省エネ活動を通じて、温室効果ガスの排出量削減に取組みます。

(5) 教育振興募金の活動強化

学園創立90周年記念事業募金の終了に伴い、大学の教育研究活動の更なる高度化、研究設備の充実、高等学校・中学校の教育環境整備の資金確保を目的に、学生・生徒の保護者を対象とした教育振興募金を再開します。

(6) ネットワークキャンパス東京の活動強化

学園・大学の首都圏における活動拠点としてネットワークキャンパス東京の体制を充実させ、情報発信・交流と学生にとって首都圏を知的運動場として強く意識できる体制をつくります。その一環として、首都圏における就職活動支援を更に強化するために、首都圏に就職した新卒社会人を対象とした「東京ウェルカムパーティ」の実施等、卒業生による就職サポートのためのネットワーク（KOMNET）の充実を図ります。

3. 広報活動・卒業生との連携

(1) 広報活動の充実・強化

引き続き、戦略的な広報活動を展開し「甲南」の社会的なブランド力の強化を図ります。社会と学校とのコミュニケーションをより密にすべく、これまでに反響を得たスポーツ、文化、ボランティア活動等への協賛を継続します。また、創立者平生鈇三郎が残した大正2年から昭和20年までの膨大な日記「平生鈇三郎日記」(全18巻)を順次、翻刻出版します。

(2) 卒業生との連携強化

同窓会、各地甲南会との連携強化を図るとともに、同窓生とのネットワーク強化、卒業生の学園への理解を深めていただくことを目的に「オール甲南の集い」を開催します。